

俳諧歲時記

新幸

俳諧歲時記

新年

附・總索引

國武山寺牧
富田本尾野
信和信
一吉哉新郎

大谷句佛
笹川臨風

改造社

昭和廿三年三月廿五日印刷
昭和廿三年三月三十日發行

定價 金三百圓

俳諧歲時記（新年の部）

編者 山本俊太

發行者 山本俊太

東京都中央區京橋一丁目三番地

印刷者 淺野剛

東京都大田區田園調布二丁目三四番地

東京都中央區京橋一丁目三番地

發兌 改造社

振替口座東京八四〇二番
電話京橋區 一六二〇番
五六一九番

配給元 東京都千代田區神田淡路町二ノ七
日本出版配給株式會社

例言

一、本書は「俳諧歳時記」新年之部とす。

一、新年之部に收容せる季題の選定並びに排列の順序は、専ら解説擔任者の意見に依りたるも、古書校註の部にのみ存する古季題は編輯部に於て適當と認むる箇所に挿入せり。

一、新年之部季題選定の範圍は、陽曆一月、及び陰曆一月に屬するものを採用せり。

一、新年之部の季題中、冬之部及び春之部に重出せるものもあるも、季の決定は兩者を參照すれば分明する様心掛けたリ。

一、本書收載の例句は、句作併びに鑑賞上の便を考慮し、一大句集を兼ねしむるため、從來の例を遙かに凌ぐ句數の採擇を乞ひて收容せり。

一、參考の部分擔は別記の通りなるも、排列の結果、山本氏の執筆に係る「鹿島の事觸」の參考は人事之部に入れたり。

一、挿畫は解説擔任者の選定を主とし、之に編輯部に於て追加せり。尙、植物之部挿畫は牧野博士の好意によりたり。

一、本書の執筆分擔は左の如し。

季題解説
實作注意
例句

大谷 旬 佛

古書校註

笹川 臨 風

參考

時候・天文

國富 信 一

人事

武田 祐 吉

宗教

山本 信 哉

動物

寺 尾 新

植物

牧、野 富 太 郎

一、本書卷末には、「俳諧歳時記」全五卷の總索引(五十音順排列)を附したリ。

昭和八年十二月

凡例

一、本歳事記は改造社の依頼により、俳諧に關する新年季題を蒐集解説したるものなり。即ち陰曆正月及び陽曆一月中に於ける事象を、時候・天文・地理・人事・宗教・動物・植物の七部門に分ち、それ／＼解説を施し、且つ古今の例句を採録し、往々實作注意を加へたり。

一、採録季題中には、今時既に廢滅に歸したるもの等も、古俳諧研究者の参考となるべきものは、つとめてこれを記載し、又、地方行事等は、句作者の参考資料として蒐集に注意したり。

一、季題排列の順序は、略舊例に則りたれども、人事の部は大體、宮廷行事・幕府行事・武家行事・民間行事（以上日取順）、衣・住・食・商・工・農・林・漁・獵・遊戲・演劇・遊里・門付類・新年禁忌語の順に分類したり。

又、宗教の部は大體日取順に收め、忌日のみは末節に一括したり。

一、例句中、改造社より送致の古句は全部、その他編纂者の見聞に任せて採録し、明治以後の例句は編纂者に於て汎く各流派の句集及び雜誌等より撰擇採録し、その廣範圍に互ることを特色の一としたり。尙、思はしき例句を得難かりしものは、雜誌「懸葵」に於て特に一般より募集し、編纂者これを採選したり。

一、本書中、百數十項に互り、畫圖を挿入して解説を補ひたり。畫圖の原典は總て本願寺所藏のものに依據したり。

一、本書の成立に就ては、「懸葵」編輯者名和三幹竹をして、編纂及び校正の助力を得たるもの多し。一言附記す。

昭和八年十一月明治節後五日

大谷 句 佛

巻頭に

まだ寒けれども初東風と呼ばれて、大路小路の門松、しりくめ繩にさらさらと吹き渡れば、日頃は洋装・洋装の姫御前も、高島田・結綿などに髪をととのへて、きらびやかな長袖にて追羽根突くも、新玉の年立ち返る春の景色ぞかし。橙・讓葉・鏡餅、いづれも目出たき限りを盡して、屠蘇に祝の盃を重ねれば、門禮者の車のひゞきも遠近に蘇きて、萬歳の打つ鼓の音も、春こゝに立ちくる思ひあり。常日頃とかはらぬ水道の水も若水と唱へられ、初荷・初買の名の何となく物珍らしく聞ゆるも、流石に歳の始めなり。お鏡／＼の聲は聞えず、鳥追のあとも絶えて、萬づ古りにし初春の興は無けれど、神代のことも思はるゝ元朝の佛、しばらくは四海波靜かにと誂ひて、清く朗かに美しく感ぜらるゝも、新年の徳なるべし。今と古と、あるほどの天文・人事・時候・動植物一切の森羅萬象を取集めたる新年の歳時記こそまことに長閑けききはみなれ。

昭和八年十二月

笹川 臨風 するす

序

自分の書いたものが印刷に附された後、讀み返して見て、満足に思つたことは、今迄一度もなかつたが、とりわけこの動物參考欄に對しては不満足感が甚しい。これは、一つには天狗俳諧式に、季題解説と別に何等の打合せもなく、執筆したためでもある。但し、このちぐはぐな點がユーモラスで、興味が深いとなら、もつめの幸とでも云はうか。固より本當に參考になるかどうかは、筆者が最初から推察し得ない處である。

昭和八年十一月廿七日

寺 尾 新

題 言

古來幾多の俳諧歳時記があつて其書は何れも其れを使ふに當ては先づ一と通り其用を辨ぜざるものはないのであるが、然かし書により其記事に精粗があつて時に靴を隔てゝ癢きを搔き、又其梓行に新舊があつて索むるに時代を異にし、今之れを使用する方から觀れば無論其れ等何れの書にも便利な點は多けれども、亦何處か其内容に不便を感じる個處もあつて、其處で此等の人々には甲に索め乙に探ぐる爲め止むを得ず数部の類書を蒐めて之れを座右に常備せざれば往々用に臨んで事を缺くといふ不便が伴はぬでもなかつたのである。

今茲に此等の不便を一掃し使用者をして成るべく失望の憾み落膽の歎きなからしめ、參考の爲めには及ぶ丈け多數の作例をも示し、又覽る人をして世の進みに連れて發生せし新事實にも觸接せしめんとして出現したものが即ち此改造社の俳諧歳時記であつた。

故に此書を使用する人々は常に此書が從來の何れの書にも優つて斯道に裨益があり之れを活用するに際しては用に應じ事に臨んで直ちに其目的事件を釣出し得べき寶庫であるといふ事を知り得るであらう、乃ち此『改造社の歳時記』は何れの時を論ぜず何れの處を問はず常に斯道者に伴隨して其使命を全うすべき一良友であると信ずる。

昭和八年十二月

理學博士 牧野富太郎 識す

例言

- 一、本書は「俳諧歳時記」新年之部とす。
- 一、新年之部に收容せる季題の選定並びに排列の順序は、専ら解説擔任者の意見に依りたるも、古書校註の部にのみ存する古季題は編輯部に於て適當と認むる箇所に挿入せり。
- 一、新年之部季題選定の範圍は、陽曆一月、及び陰曆一月に屬するものを採用せり。

一、新年之部の季題中、冬之部及び春之部に重出せるものあるも、季の決定は兩者を參照すれば分明する様心掛けたり。

一、本書收載の例句は、句作並びに鑑賞上の便を考慮し、一大句集を兼ねしむるため、從來の例を遙かに凌ぐ句数の採擇を乞ひて收容せり。

一、參考の部分擔は別記の通りなるも、排列の結果、山本氏の執筆に係る「鹿島の事觸」の參考は人事之部に入れたり。

一、挿畫は解説擔任者の選定を主とし、之に編輯部に於て追加せり。尙、植物之部挿畫は牧野博士の好意に寄たり。

一、本書の執筆分擔は左の如し。

季題解説
實作注意
例句

大谷 旬 佛

古書校註

笹川 臨 風

參考

國富 信 一

時候・天文

武田 祐 吉

人事

山本 信 哉

宗教

寺 尾 新

動物

牧、野 富 太郎

植物

一、本書卷末には「俳諧歳時記」全五卷の總索引(五十音順排列)を附したり。

昭和八年十二月

[illegible]

[illegible]

組	初	初	初	初	初	初	春	初	初	春	著	松	節	苞	二十日	賞	賽	秋田の鳥追ひ	藪	木を囃す	鳥追櫓	蛇踊餅	鹽釜のごつとな	ほんだる	博多松離子	左義長	粥十五日粥	糯米打	嫁叩き	御方打
始	炊	屏風敷	座敷入	嫁入	寫眞	鏡	髪袋	衣衾	衣衾	著	始	葉錢舞	振舞	入	祝	湯	焼	ひ	入	す							木	打	打	
二五	二三	三三	三五	三一	二〇	一九	一九	二九	二六	二八	二六	二五	二五	二四	二四	二四	二五	二三	二九	三八	三八	二七	二七	二六	二六	二一	一九	一九	一八	一八

湯殿始	初火事	商固箸	太箸	喰鯛	据り	若魚	二日の海鼠の膾	若餅	粥柱	結昆	兩の物	芋頭	開豆	開牛	草石	依蠶	海子	數身子	螺着	田作	押鮎	葩煎	紫蘇	地黃	防風	阿茶羅	切山椒	算木茶	勅題菓子	樞衣	五ヶ日の鈴	八日蕎麥	福佛	大茶服	正月	桃仁湯	梅酒																													
三十四	三十三	三十二	三十一	三十	二十九	二十八	二十七	二十六	二十五	二十四	二十三	二十二	二十一	二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四

[illegible]

初妙見	三六四	初綱播	三六四	鶴ヶ岡八幡宮の御	三五五	重頂き	三五五	清瀧權現護摩修行	三五五	六波羅の大福茶	三五五	黃嬖放參	三五五	淑山元三大師會	三五五	萬代精進	三五五	東本願寺修正會	三五五	屠蘇御流れ煩與	三五五	淺草觀音追儼	三五五	七福神詣	三五五	四天王寺修正會	三五五	熊野連歌始	三五五	北野の筆始祭	三七〇	船靈祭	三七〇	鳥繁の神事	三七〇	天狗宴	三七〇	厨下	三七〇	三弘法詣	三七〇	大日詣	三七〇	長崎七高山詣	三七〇	元始祭	三七〇	東照宮誦初	三七〇	毘沙門の使	三七〇	柴神樂	三七〇	玉せり	三七〇	小鷹の田植式	三七〇	茗荷祭	三七〇	吉兆祭	三七〇	東寺牛王加持	三七〇	東叡山大黒の湯	三七〇	東叡山兩大師詣	三七〇	初祖師	三七〇	堂押	三七〇	住吉踏歌節會	三七〇	歳山祭	三七〇
-----	-----	-----	-----	----------	-----	-----	-----	----------	-----	---------	-----	------	-----	---------	-----	------	-----	---------	-----	---------	-----	--------	-----	------	-----	---------	-----	-------	-----	--------	-----	-----	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	------	-----	-----	-----	--------	-----	-----	-----	-------	-----	-------	-----	-----	-----	-----	-----	--------	-----	-----	-----	-----	-----	--------	-----	---------	-----	---------	-----	-----	-----	----	-----	--------	-----	-----	-----

裏白連歌	三五九	接神	三五九	開印	三五〇	稻荷の大山祭	三五〇	初縣	三五〇	御福迎	三五〇	初水天宮	三五〇	淺草三社權現流鏑	三五〇	馬	三五〇	淺草寺牛王加持	三五〇	天王寺生身供	三五〇	東福寺羅漢供	三五〇	五日戎	三五〇	嚴島神社の年越祭	三五〇	綱八幡の御弓神事	三五〇	三鳥御田打祭	三五〇	芝神明祭	三五〇	山王神事能	三五〇	產土神參	三五〇	高臺寺方丈儀法	三五〇	賓頭盧廻	三五〇	祖師祭	三五〇	公現祭	三五〇	住吉の白馬神事	三五〇	青馬祭	三五〇	嚴島の御弓始	三五〇	若菜祭	三五〇	太宰府の追儼祭	三五〇	菜摘川の神事	三五〇	七草祭	三五〇	蜜柑納め	三五〇	箕面富	三五〇	大融寺の富	三五〇	勝尾寺の富	三五〇	清水の牛王	三五〇	蘇民將來の祭	三五〇	御判戴き	三五〇	太元師法	三五〇
------	-----	----	-----	----	-----	--------	-----	----	-----	-----	-----	------	-----	----------	-----	---	-----	---------	-----	--------	-----	--------	-----	-----	-----	----------	-----	----------	-----	--------	-----	------	-----	-------	-----	------	-----	---------	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	---------	-----	-----	-----	--------	-----	-----	-----	---------	-----	--------	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	--------	-----	------	-----	------	-----

眞言院の御修法	三九〇	御齋會	三九〇	熱田鬼祭	三九〇	初藥師	三九〇	大元帥明王初祈禱	三九〇	西宮の居籠	三九〇	天公祭	三九〇	西本願寺報恩講	三九〇	常陸帶の神事	三九〇	貴布禰神社供	三九〇	十日戎	三九〇	初金毘羅	三九〇	市神祭	三九〇	伊弉志祭	三九〇	初甲子	三九〇	谷中天王寺の富	三九〇	初卯	三九〇	初辰	三九〇	上辰の祓	三九〇	初巳	三九〇	布施參	三九〇	初庚申	三九〇	淺草寺境内山王宮	三九〇	開戸	三九〇	杵森居籠	三九〇	初酉	三九〇	松尾山神祭	三九〇	亥巳籠	三九〇	初亥	三九〇	神宮奏事始	三九〇	熱田踏歌神事	三九〇	住吉評定始	三九〇	甘酒祭	三九〇	天王寺金堂手斧始	三九〇	空也堂針敲出初	三九〇	法談始	三九〇	稻荷の奉射祭	三九〇
---------	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	---------	-----	--------	-----	--------	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	---------	-----	----	-----	----	-----	------	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	----------	-----	----	-----	------	-----	----	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	-------	-----	--------	-----	-------	-----	-----	-----	----------	-----	---------	-----	-----	-----	--------	-----

日賣許曾祭	四三三	玉替神事	四三八	二十日夷祭	四四三
報恩寺の俎開	四三三	山崎會合始	四三八	春日御田植祭	四四三
淺草寺の溫座陀羅	四三三	幸の神祭	四三八	初盤神供	四四四
尼	四三三	三十三問堂の揚枝	四三九	初大餽	四四四
東照宮連歌始	四三三	淨水加持	四三九	御弓祭	四四四
住吉の御弓	四三三	興福寺心經會	四三九	火防祭	四四四
直會祭	四三三	燒峨釋迦開帳	四三九	善正寺釋迦開帳	四四五
上賀茂御棚飾	四三三	初聖天	四三九	阿部野祭	四四五
豐橋赤祭	四三三	上元祭	四三九	笹宮祭	四四五
道祖神祭	四三七	龜戸の大御食調進	四三一	牛の祈禱	四四六
赤塚田遊祭	四三七	唯押	四三一	初鷹岩	四四六
寒境爺祭	四三七	日野の裸踊	四三一	龜戸鷹岩の神事	四四六
丸岡火祭	四三七	七瀬川の裸踊	四三一	初天神	四四八
御齋會内論義	四三七	麟祥院春日局木曾	四三一	下津林神事能	四四八
吉田の鬼祭	四三八	開扉	四三一	初不動	四四九
熱田的射	四三八	山門開き	四三一	孝明天皇祭	四四九
鹿島踏歌祭	四三八	雜司ヶ谷鬼子母神	四三一	清水寺本式連歌	四四九
伊勢世様	四四九	堂奉射	四三三	松例祭	四四九
安滿粥占	四四九	興福寺法起始	四三三	美江寺の御蠶祭	四五〇
天王寺牛王出	四四九	大茶盛	四三三	上賀茂燃燈祭	四五〇
會陽	四四九	遊行寺の札切	四三三	嚴島祭	四五〇
難波牛頭天王綱引	四四九	初閻魔	四三三	春日の水飴	四五〇
長谷唯押	四四九	妙見寺の石賣	四三三	壬生餅園	四五〇
譽田八幡水斗	四四九	永樂堂大般若轉讀	四三三	歲德神	四五〇
龜戸道祖神祭	四四九	管絃講	四三三	惠方詣	四五〇
日待	四四九	精進頭	四三三	門の神棚	四五〇
仁德祭	四四九	新御靈御弓	四三三	初伊勢詣	四五〇
獅子頭の神事	四四九	護國寺開帳	四三三	初神樂	四五〇
御粥祭	四四九	王子十八講	四三三	初虚空藏	四五〇
枚岡の御粥占神事	四四九	仁壽殿觀音供	四三三	初勤行	四五〇
伊井諸神社粥占祭	四四九	淺草觀音亡者送り	四三三	初護摩	四五〇
石卷粥占	四四九	鬼走り	四三三	役行者忌	四五〇
三保祭	四四九	初觀音	四三三	才磨忌	四五〇
粥づけ	四四九	厄神詣	四三三	幻呼忌	四五〇
鹿島の司召祭	四四九	吉田清祓	四三三	野坡忌	四五〇
西七條田植神事	四四九	女節分	四三三	義朝忌	四五〇
世計酒	四四九	御忌	四三三	元三六節忌	四五〇
船方祭	四四九	野里一夜官女	四三三		

[illegible]